

やよい図書館TOPICS

館長が紹介する「印象に残った一文」とは？

フレーズ
&
センテンス

「割り箸一本あればかける」

今回は、プロの女性作家10人の創作に関するインタビュー集からの一文をご紹介します。これは、核となるものを見つけたら着地点も決めずに書き始めるのだという、酒井順子さんの言葉です。「綿菓子みたいに割り箸一本あればなんかできちゃう」のだとか。特に興味深いのが、それぞれの作家の、デビュー以前の話です。どんなに才能のある作家でも、書き始めなければ何も始まらなかったのだと感じさせられます。プロの仕事の舞台裏をぜひご覧ください。

『執筆前夜』 CW編集部／編 新風社 (青山)

「誰か×誰か」「誰か×何か」の組み合わせが面白い！

伊藤計画×円城塔 『屍者の帝国』 河出書房新社

夭折の作家、伊藤計画。彼は、この『屍者の帝国』の序章とA4一枚のプロットを遺し、この世を去りました。しかし、この物語は盟友である作家、円城塔によって書き継がれ、一冊の本となり、映画化も予定されています。タイトルから受けるおどろおどろしいイメージとは異なり、『フランケンシュタイン』を題材としたSFエンターテインメントです。いったいどこまでが彼の「計画」だったのか、私たちは知る術を持ちません。それでも、死という深い断絶を超えて届いたこの物語を、私は存分に楽しみたいと思います。(丸山)

Cinema
library

第14回 アルジャーノンに花束を

★原作『アルジャーノンに花束を』著者：ダニエル・キイス

★映画「まごころを君に」主演：クリフ・ロバートソン

今回ご紹介するのは、4月から始まったテレビドラマでもおなじみの『アルジャーノンに花束を』です。過去にはアメリカ、カナダ、フランスで映画化され、1968年のアメリカ版では主演男優賞を受賞しました。『アルジャーノンに花束を』という題名を聞いて、想像する内容は人それぞれだと思いますが、SF作品を思い浮かべる方は少ないのではないでしょうか。

6歳児の知能しか持たない32歳の男、チャーリーは、ある日通っている学校の教授から脳手術を勧められます。ハツカネズミの「アルジャーノン」がすでに動物実験に成功しており、天才的な脳を得たのです。「頭がよくなりたい」と願うチャーリーは手術を受けることを承諾し、望み通り超天才脳を手に入れますが・・・。チャーリーによる「経過報告」として語られますが、その語り口の変貌にもご注目ください！

次回は『時をかける少女』です。お楽しみに！

(田中)



読書の窓

次回の読書の窓は
7月号です。

その月ならではのテーマを特集。全てやよい図書館で借りられます。

5月「スポーツ」

春真っ只中、外に出てスポーツをするにはちょうど良い気温になってきました。今回は人に多くを知らないスポーツの本をテーマにしました。

『スポーツのある生活で健康に

誰でもできるトライアスロン』

トライアスロンを楽しむ会／学研

トライアスロンと聞いて、「走って、自転車をこいで、泳ぐなんて無理！」と思ったあなたにぜひ読んでもらいたい。ハードな印象の競技ですが、タレントや作家もトライアスロン経験者なのです。この本を読めばこの競技をもっと身近に感じるはず。新しいことを始めたい方、夏に向けてトライしてみては？ (佐藤)

かける ×本精読



『たまごを持つように』

まはら三桃／著 講談社

何事にも不器用な中学生の女の子、早弥。弓道部に入ったものの、弓道を始めたばかりの彼女は上達も遅く、なかなかうまく射ることができません。そんな彼女と、彼女を取り巻く個性豊かな部員たちの葛藤と成長を描いた物語です。弓道はとても静かなスポーツだと思います。けれど、その静けさの中に、確かな熱を秘めている。そう感じられる一冊です。 (丸山)

『日本シンクロ栄光の軌跡』

金子正子／編 出版芸術社

シンクロナイズドスイミングの採点方法、技の形といったルールに加え、五輪当時の様子や、歴代名選手の姿までもが詳細に語られています。特に興味深いのがシンクロの舞台裏。音楽、振り付け、衣装、マイクの決定や運動、食事面の管理…本当に多くの要素が美しい演技を支えていることがうかがえます。コンパクトな本ですが、内容は読み応え充分です！ (本田)

・『友よ—Rugby is Rugby』

大八木淳史／著 ダイヤモンド社

・『下町ボブスレー僕らのソリが五輪に挑む』

奥山 瞳／著 日刊工業新聞社

6月「宇宙」

6月13日は小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還した日です。宇宙の神秘を感じられる作品をご紹介します！

『小惑星探査機「はやぶさ」宇宙の旅』

佐藤真澄／著 汐文社

もうじき、“彼”が帰ってくる――。

皆さんは覚えていますか？ 太陽系の謎を解き明かすために小惑星へ行き、サンプルを持ち帰ってきた小惑星探査機「はやぶさ」の存在を。彼が地球に帰還するまでかかった年数はなんと7年！ はやぶさの長い旅路が描かれた熱いノンフィクションストーリーに、子どもも大人も夢中になります。 (熊谷)

『眠れなくなる宇宙のはなし』

佐藤勝彦／著 宝島社

「宇宙とはいって何なのか」…人類は紀元前の昔から、この問いに頭を悩ませてきました。それはるかな歴史を追ながら、現代の宇宙論までカバーした、宇宙論の入門書です。これだけ長く、たくさんの人々が研究し続けているのに、宇宙の95%はまだ正体不明なんだとか。たまには夜空を見上げて、その正体に思いを馳せてみるのもいいかもしれませんね。(丸山)

『このすばらしい世界』

ロバが語った宇宙飛行士の話】

山口タオ／文 葉祥明／絵 講談社

地球は青かった。20世紀半ば、人類が見つけたその姿に世界中が感動しました。けれどもそれはなぜだろう。ロバが出会った宇宙飛行士がこぼした疑問。その答えを、ロバとリンゴが教えてくれました。やさしく紡がれる文章と透明感のあるイラストとともに、何気ない日々にふとした疑問を投げかけます。(尾留川)

・『てのひらの中の宇宙』

川端裕人／著 角川書店

・『銀河鉄道の夜 宮沢賢治童話傑作選』

宮沢賢治／著 偕成社